

社会科学習指導案

1 単元 政府の役割と国民の福祉

2 単元設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け（身に付けることができるよう指導する事項）

[知識及び技能]

- (1) ア(ア)社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解すること。
(イ)財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等]

- (1) イ(ア)市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。
(イ)財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現すること。

②単元の価値

本単元は、国民生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備や、社会保障の充実など、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割や財政の役割について考えさせるものである。このような学習を通して、財政及び租税の役割や意義、納税の義務について、多面的・多角的に考察し、理解することができる。また、今後の少子高齢化の進展による税の負担の在り方を中心に、大きな政府と小さな政府のどちらの方向に進むべきか、また、社会保障を充実させていくための方法等について、「効率」と「公正」といった視点から考え、公正に判断することができる。

③単元の系統性

- ・前単元の「価格の働きと金融」では、市場経済の基本的な考え方、現代の市場経済や金融などの仕組みや働きなどを理解してきた。
- ・次単元の「これからの経済」では、本単元で学習した内容を基にして、豊かな社会を形成するために必要なことは何か、「経済成長」「環境保全」「グローバル化」などの視点及び「政府」「国民」「企業」の立場から多面的・多角的に考察していく。

(2) 生徒観（男子 18 名、女子 16 名 計 34 名）

- ・思考力、判断力、表現力等については、「消費税増税についてどう思うか」という質問に対して「税金が増えるのは嫌だ」「物が買いつらくなる」といった回答がほとんどであった。これは、増税といった事象を自分（消費者）の立場といった一面的な見方で判断していることが原因であり、他の視点や立場も踏まえて多面的・多角的に考察する力が不足しているといえる。

(3) 指導観

- ・消費税増税や少子高齢化など、新聞やニュースで取り上げられていることを資料として提示することで、財政、税金、社会保障を身近なものに感じることができるようになる。
- ・授業の導入に「振り返りシート」を活用させることで、前時の授業とのつながりをもたせ、既習事項を活用させながら課題を追究できるようにする。
- ・授業の終わりに、その授業での学びを「振り返りシート」に書かせることで、本時の学びを自覚させ、1 単位時間ごとの学びを蓄積させていく。
- ・小グループでの話し合い活動を適宜取り入れ、意見交流の機会を設けることで、課題追究の際には、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようにする。
- ・誰もが安心して暮らせる社会保障について「財源の確保や配分」などの視点や「政府」「国民」「企業」などの立場から考えることで、多面的・多角的に考察できるようにする。

3 単元の目標

国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割や財政・租税の意義と役割について多面的・多角的に考察し、理解するとともに、今後の財政や社会保障の在り方について自分なりの考えをもち、表現することができる。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (4 / 6)

(1) 目標

国民の生活と福祉の向上を図るための今後の財政の在り方について、「小さな政府」と「大きな政府」という視点から多面的・多角的に考察し、自分なりの考えをもち表現することができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応		指導上の留意点及び支援・評価									
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回、日本は国債が増加していることを学んだな。 ・ 負担が大きい国は、福祉も充実していて、その逆の国もある。それぞれにどんな違いやよさがあるのかな。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの振り返りシートの記述を確認することで、前時までの学習を想起させる。 ○ 日本と欧米諸国が「小さな政府」「大きな政府」のどちらに近いかわかる資料を提示することで、これからの財政はどうあるべきか疑問をもたせる。 									
<p>課題： 日本は、「小さな政府」と「大きな政府」のどちらに向かうのがよいのだろうか。</p>											
<p>2 個人で「小さな政府」と「大きな政府」のどちらに向かうのがよいのか、その理由も含めて考える。</p> <p>3 「小さな政府」と「大きな政府」のメリットとデメリットをそれぞれの立場に立って考え、どちらに向かうのがよいのかグループで討論をする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>メリット</th> <th>デメリット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">小さな政府</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税負担が小さい ・ 社会保険料の負担が小さい ・ 国債の残高が減る ・ 家計の自由が上がる ・ 企業が自由に活動できる幅が広がる </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身で備えなくてはならない ・ 低所得者は苦しい ・ 所得の再分配が難しくなる ・ 公共サービスが充実しない </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">大きな政府</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉が充実する ・ 低所得者にはよい ・ 社会資本や公共サービスが充実する ・ いろんな世代や立場の人が生活を支えてもらえる </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税負担や社会保険料の負担が大きい ・ 国債の残高が増える ・ 家計の自由度が下がる ・ 企業の自由な活動の範囲が狭くなる </td> </tr> </tbody> </table>			メリット	デメリット	小さな政府	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税負担が小さい ・ 社会保険料の負担が小さい ・ 国債の残高が減る ・ 家計の自由が上がる ・ 企業が自由に活動できる幅が広がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身で備えなくてはならない ・ 低所得者は苦しい ・ 所得の再分配が難しくなる ・ 公共サービスが充実しない 	大きな政府	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉が充実する ・ 低所得者にはよい ・ 社会資本や公共サービスが充実する ・ いろんな世代や立場の人が生活を支えてもらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税負担や社会保険料の負担が大きい ・ 国債の残高が増える ・ 家計の自由度が下がる ・ 企業の自由な活動の範囲が狭くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の考えの変容を見取るために、「小さな政府」「大きな政府」について、まずは個人の考えを書かせる。 ○ 「小さな政府」「大きな政府」の両面から様々な考えを出させるために、それぞれの立場で考えさせる。 ○ 振り返りシートやノートを活用させることで、「国債」「社会資本・公共サービス」などの既習事項を想起させ、自分の考えの根拠として示せるようにする。 ○ 自分の立場からの主張をする際は、資料を根拠として提示するよう促す。 ○ 討論では、時間を区切って「小さな政府」「大きな政府」のそれぞれに発表をさせることで、お互いの立場のメリットに気付かせる。 ○ お互いの立場の主張を聞いて、それに対する質問ができるように、自分の立場の主張だけでなく、相手の立場のデメリットも考えさせる。 ○ 様々な考えを比較関連させ、考えを深めさせることができるように、グループの討論で出された主張について板書で整理する。
	メリット	デメリット									
小さな政府	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税負担が小さい ・ 社会保険料の負担が小さい ・ 国債の残高が減る ・ 家計の自由が上がる ・ 企業が自由に活動できる幅が広がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身で備えなくてはならない ・ 低所得者は苦しい ・ 所得の再分配が難しくなる ・ 公共サービスが充実しない 									
大きな政府	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉が充実する ・ 低所得者にはよい ・ 社会資本や公共サービスが充実する ・ いろんな世代や立場の人が生活を支えてもらえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税負担や社会保険料の負担が大きい ・ 国債の残高が増える ・ 家計の自由度が下がる ・ 企業の自由な活動の範囲が狭くなる 									
<p>4 討論の立場を離れて、自分の考えを根拠に基づいて書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな政府がよいと思う。最初は、福祉が少ないから駄目だと思っていたけど、国債が減り、家計や企業の自由が増えるならいいのかと思った。 ・ 大きな政府がよいと思う。負担は大きなくても福祉が充実した方が、より多くの方が暮らしやすいと思った。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを認識させ、学びの自覚をもたせるために、もう一度自分の考えを書かせる。 ○ 討論の時の立場を離れて自分なりの考えをもたせることで、複数の立場や意見を踏まえ、根拠に基づき判断する力が伸ばせるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】 これからの財政の在り方について、複数の視点から考え、判断したことを自分の言葉でまとめることができる。 (発言・ノート)</p> </div>									
<p>5 本時の学習の振り返りをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の課題を意識させるために、単元の課題の解決に生かせそうなことに線を引かせる。 									
<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「小さな政府」「大きな政府」どちらにもプラスとマイナスがあるが、歳入のほとんどを占める税金を無駄なく使い、誰もが安心して暮らせる社会の実現が図れる財政の在り方をみんなが考えていくべきだ。 ・ 消費税が10%に上がることで福祉が本当に充実するのだろうか。 											

指導と評価の計画 社会科 3年 単元「政府の役割と国民の福祉」（全6時間計画）

目標	国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割や財政・租税の意義と役割について多面的・多角的に考察し、理解するとともに、今後の財政や社会保障の在り方について自分なりの考えをもち、表現することができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】 財政及び租税の意義、日本の社会保障の仕組みについて理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 財政及び租税の役割や社会保障の在り方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 現代社会の財政や社会保障の課題を意欲的に追究しようとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価 (方法・観点)
つかむ	1	<p>◎日本の財政や社会保障の課題について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>日本の財政や社会保障の課題を見つけ、単元の課題を設定しよう。</p>	<p>○新聞や、資料集の図表などを基に、現在の日本の現状と将来の予想を比べて、自分たちが大人になってからの日本を考え、日本の財政や社会保障の課題を見つけ、発表し合う。</p> <p>○発表を基に単元の課題を設定する。</p>	<p>☆少子高齢化がこのまま進むと、私たちの税金の負担が増えるな。</p> <p>☆将来、私たちは年金がもらえるのかな。</p> <p>☆みんなが平等に生活できた方がよいのに、不平等なのはよくないな。</p> <p>☆みんなが暮らしやすい日本にするためには、消費税率のアップが必要なのだろうか。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 諸資料から読み取った日本の財政や社会保障の課題について、文章に表したり発表したりすることができる。 (ノートの記述、発言)</p>
		単元の課題：国民の生活や福祉の向上のためには、どのような財政や社会保障の在り方が考えられるだろう。			
追究	1	<p>◎日本の歳入、歳出、税金の種類や仕組みについて調べ、日本の経済活動や税制の特色を理解することができる。</p> <p>日本の経済活動や税制には、どのような特色があるのか。</p>	<p>○歳入、歳出の資料を読み取り、日本の経済活動の特色をまとめる。</p> <p>○税金の種類を調べ、日本の税制の仕組みを理解する。</p>	<p>☆日本の歳入は主に税金で、歳出は社会保障が一番多いのだな。</p> <p>☆税金の種類は、様々あって、国民が公平に負担するために、累進課税という制度が取られているのだな。</p>	<p>【知識・技能】 日本の歳入・歳出、税金の種類や仕組みを理解することができる。 (ノートの記述)</p>
		<p>◎社会資本や公共サービス、財政政策、公債の発行について調べ、政府が果たしている経済的な役割と財政の課題を理解することができる。</p> <p>政府はどのような経済的役割を果たし、どのような財政の課題を抱えているのか。</p>	<p>○身近な社会資本や公共サービス、財政政策について調べ、政府が果たしている経済的な役割をまとめる。</p> <p>○日本の国債残高の資料を読み取り、国債発行の実態と課題について話し合う。</p>	<p>☆政府は、道路、学校などの社会資本や教育、社会保障などの公共サービスを供給したり、経済格差を改善したり景気を安定させようとしていたりしているのだな。</p> <p>☆国債が年々増加していて、将来の日本は大丈夫なのかな。</p>	<p>【知識・技能】 身近な社会資本や公共サービス、財政政策、公債の発行について調べ、政府が果たしている経済的な役割と財政の課題を理解することができる。 (ノートの記述)</p>

追 究 す る	1 (本時)	<p>◎国民生活と福祉の向上を図るための今後の財政の在り方について、「小さな政府」と「大きな政府」という視点から多面的・多角的に考察し、自分なりの考えをもち、表現することができる。</p> <p>日本は、「小さな政府」と「大きな政府」のどちらに向かうのがよいのだろうか。</p>	<p>○「小さな政府」と「大きな政府」のメリットとデメリットをそれぞれの立場に立って考え、どちらに向かうのがよいのかグループで討論をする。</p> <p>○討論の立場を離れて、自分の考えを根拠に基づいて書き、発表する。</p>	<p>☆「小さな政府」にすると社会資本や公共サービスが十分じゃなくなり、「大きな政府」にすると税金の負担が多くなることが分かった。</p> <p>☆「小さな政府」「大きな政府」どちらにもプラスとマイナスがあるが、歳入のほとんどを占める税金を無駄なく使い、誰もが安心して暮らせる社会の実現が図れる財政の在り方をみんなが考えていくべきだ。</p> <p>☆消費税が10%に上げることで福祉が本当に充実するのだろうか。</p>	<p>【思考・判断・表現】 これからの財政の在り方について、自分の言葉でまとめることができる。 (ノートの記述)</p>
	1	<p>◎日本の社会保障の四つの柱について調べ、社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましについて理解することができる。</p> <p>日本の社会保障制度は、どのような仕組みになっているか。</p>	<p>○社会保障が生まれた背景を踏まえ、社会保障の意義や働きを考える。</p> <p>○社会保障の四つの柱について調べて社会保障制度のあらましをまとめる</p> <p>○現状の社会保障が抱えている課題を見つける。</p>	<p>☆社会保障制度は、労働者の生活を保障するために始まり、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生の四つに分かれているのだな。</p> <p>☆生活・命を守るために社会保障制度が必要で、だからこそ歳出で一番多いのだな。</p> <p>☆少子高齢化が進み、社会保障は十分に行き届くのかな。</p>	<p>【知識・技能】 日本の社会保障制度の四つの柱とともに、それが抱える課題を理解することができる。 (ノートの記述)</p>
	1	<p>◎日本の社会保障と財政の在り方について、複数の視点や立場から多面的・多角的に考察できる。</p> <p>国民の生活や福祉の向上のためには、どのような財政や社会保障の在り方が考えられるだろう。</p>	<p>○単元を通して学習してきたことや意見交流をしたことを基にして、「消費税率」を切り口に単元の課題に対する考えを、自分の言葉でまとめる。</p>	<p>☆消費税率は、10%から今後更に上げていかないと社会保障制度を維持するのが難しいな。また、国債の残高を減らす意味でも税率アップは仕方ないな。</p> <p>☆税収の安定化を図ることは必要だが、消費税は間接税なので経済的に苦しい人の負担が大きく、貧富の差が広がってしまうな。</p> <p>☆景気が悪いときに増税すると消費が冷え込み、逆に税収が増えないことも考えられるな。まず、税金の無駄遣いを減らしていくことが重要なのかな。</p>	<p>【思考・判断・表現】 日本の財政と社会保障の在り方について多面的・多角的に考察し、自分の言葉でまとめることができる。 (ノートの記述)</p>